

1) 5 点 2) 5 点 計 10 点

A, B, C の 3 個のさいころを同時に投げるとき、次の確率を求めよ。

- 1) 出た目の積が偶数である確率
- 2) 出た目の積が 25 の倍数である確率

2) 15 点

光線があるガラス板を 1 枚通過するごとに、その強さの $\frac{11}{1000}$ を失うとする。光線の強さがもとの $\frac{1}{3}$ 以下になるのは、このガラス板を何枚以上通過したときか。常用対数表を用いて求めよ。

3) 1) 10 点 2) 15 点 計 25 点

$\triangle OAB$ において、辺 AB を $2:1$ に内分する点を P 、辺 OB を $3:2$ に内分する点を Q とする。 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$ 、 $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ として、以下の問いに答えよ。

- 1) 線分 OP と線分 AQ の交点を R とするとき、 \overrightarrow{OR} を \vec{a} 、 \vec{b} を用いて表せ。
- 2) $|\vec{a}| = a$ 、 $|\vec{b}| = b$ 、 $\angle AOB = \theta$ ($0 < \theta < \frac{\pi}{2}$) とする。 $\triangle ROA$ が OA を底辺とする二等辺三角形となるための条件を、 a 、 b 、 θ を用いて表せ。

4) 25 点

$$y = \sin\left(x + \frac{\pi}{3}\right) + \sin\left(x + \frac{2}{3}\pi\right) + \sqrt{3}\cos\left(x + \frac{7}{6}\pi\right) + \sqrt{3}\cos\left(x - \frac{\pi}{6}\right) + 2\sin x \cos x$$

($0 \leq x < 2\pi$) とするとき、 y のとり得る値の範囲を求めよ。

5) 25 点

放物線 $y = x(1 - x)$ と直線 $y = m$ ($m > 0$) が異なる 2 点 A 、 B で交わるとき、 $\triangle OAB$ の面積が最大となる m の値およびそのときの面積を求めよ。ただし、 O は原点とする。

1) 5点 2) 5点 計 10点

1) 目の出方の総数は 6^3 (通り)

「出た目の積が偶数である」という事象の余事象は「出た目の積が奇数である」であり、出た目の積が奇数になるのは、3個のさいころの目がすべて奇数のときである。

したがって、求める確率は

$$1 - \frac{3^3}{6^3} = \frac{7}{8}$$

2) 出た目の積が 25 の倍数になるのは、3個のさいころのうち少なくとも 2個で 5 が出るときである。

2個が 5、1個が 5 以外となる目の出方は ${}_3C_2 \times 5 = 15$ (通り)

3個とも 5 となる目の出方は 1 通り

したがって、求める確率は

$$\frac{15+1}{6^3} = \frac{2}{27}$$

2) 15点

光線がガラス板 1 枚を通過するごとに、その光の強さは $1 - \frac{11}{1000} = \frac{989}{1000}$ (倍) になる。

よって、光線の強さがもとの $\frac{1}{3}$ 以下になるとすると $\left(\frac{989}{1000}\right)^n \leq \frac{1}{3}$

両辺の常用対数をとると $n \log_{10} \frac{989}{1000} \leq \log_{10} \frac{1}{3}$

ゆえに $n(\log_{10} 989 - 3) \leq -\log_{10} 3$

よって $n(\log_{10} 9.89 + 2 - 3) \leq -\log_{10} 3$

ゆえに $n(0.9952 - 1) \leq -0.4771$

よって $n \geq \frac{4771}{48} = 99.3 \dots \dots$

したがって、光線の強さがもとの $\frac{1}{3}$ 以下になるのは、このガラス板を 100 枚以上通過したときである。

3) 1) 10点 2) 15点 計 25点

1) 条件より $\vec{OP} = \frac{1}{3}\vec{a} + \frac{2}{3}\vec{b}$

3点 O, R, P は同一直線上にあるので、 k を実数として

$$\vec{OR} = k\vec{OP} = \frac{k}{3}\vec{a} + \frac{2k}{3}\vec{b} \dots \dots \textcircled{1}$$

と表せる。また、 $AR : RQ = t : (1-t)$ とすると

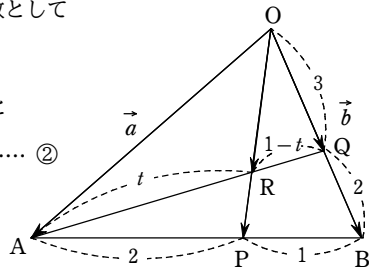
$$\vec{OR} = (1-t)\vec{OA} + t\vec{OQ} = (1-t)\vec{a} + \frac{3}{5}t\vec{b} \dots \dots \textcircled{2}$$

\vec{a} と \vec{b} は一次独立であるから、①, ②より

$$\frac{1}{3}k = 1-t, \quad \frac{2}{3}k = \frac{3}{5}t$$

これを解いて $k = \frac{9}{13}, t = \frac{10}{13}$

ゆえに $\vec{OR} = \frac{3}{13}\vec{a} + \frac{6}{13}\vec{b}$



2) $|\vec{a}| = a, |\vec{b}| = b, \angle AOB = \theta$ のとき $\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}||\vec{b}|\cos\theta = ab\cos\theta$

1) より、 $\vec{OR} = \frac{3}{13}(\vec{a} + 2\vec{b})$ であるから

$$\begin{aligned} |\vec{OR}|^2 &= \left(\frac{3}{13}\right)^2 |\vec{a} + 2\vec{b}|^2 = \left(\frac{3}{13}\right)^2 (|\vec{a}|^2 + 4\vec{a} \cdot \vec{b} + 4|\vec{b}|^2) \\ &= \left(\frac{3}{13}\right)^2 (a^2 + 4ab\cos\theta + 4b^2) \end{aligned}$$

$$\text{また } \vec{AR} = \vec{OR} - \vec{OA} = \frac{3}{13}\vec{a} + \frac{6}{13}\vec{b} - \vec{a} = -\frac{10}{13}\vec{a} + \frac{6}{13}\vec{b} = \frac{2}{13}(-5\vec{a} + 3\vec{b})$$

であるから

$$\begin{aligned} |\vec{AR}|^2 &= \left(\frac{2}{13}\right)^2 |-5\vec{a} + 3\vec{b}|^2 = \left(\frac{2}{13}\right)^2 (25|\vec{a}|^2 - 30\vec{a} \cdot \vec{b} + 9|\vec{b}|^2) \\ &= \left(\frac{2}{13}\right)^2 (25a^2 - 30ab\cos\theta + 9b^2) \end{aligned}$$

$\triangle ROA$ が OA を底辺とする二等辺三角形になるとき、 $OR = AR$ より $|\vec{OR}|^2 = |\vec{AR}|^2$ となるので

$$\left(\frac{3}{13}\right)^2 (a^2 + 4ab\cos\theta + 4b^2) = \left(\frac{2}{13}\right)^2 (25a^2 - 30ab\cos\theta + 9b^2)$$

整理して $12ab\cos\theta = 7a^2$

$a > 0, b > 0$ であるから、求める条件は $\cos\theta = \frac{7a}{12b}$

4) 25点

$$y = \sin\left(x + \frac{\pi}{3}\right) + \sin\left(x + \frac{2}{3}\pi\right) + \sqrt{3}\cos\left(x + \frac{7}{6}\pi\right) + \sqrt{3}\cos\left(x - \frac{\pi}{6}\right) + 2\sin x \cos x$$

$$= 2\sin\frac{2x+\pi}{2}\cos\frac{-\pi}{2} + 2\sqrt{3}\cos\frac{2x+\pi}{2}\cos\frac{\frac{4}{3}\pi}{2} + 2\sin x \cos x$$

$$= 2\sin\left(x + \frac{\pi}{2}\right)\cos\frac{\pi}{6} + 2\sqrt{3}\cos\left(x + \frac{\pi}{2}\right)\cos\frac{2}{3}\pi + 2\sin x \cos x$$

$$= \sqrt{3}\cos x + \sqrt{3}\sin x + 2\sin x \cos x$$

$$= \sqrt{3}(\sin x + \cos x) + 2\sin x \cos x$$

ここで $t = \sin x + \cos x$ とおくと

$$t^2 = (\sin x + \cos x)^2 = 1 + 2\sin x \cos x \quad \text{であるから} \quad 2\sin x \cos x = t^2 - 1$$

$$\text{よって} \quad y = \sqrt{3}t + t^2 - 1 = t^2 + \sqrt{3}t - 1 = \left(t + \frac{\sqrt{3}}{2}\right)^2 - \frac{7}{4}$$

また $t = \sqrt{2}\sin\left(x + \frac{\pi}{4}\right)$ であり、 $-1 \leq \sin\left(x + \frac{\pi}{4}\right) \leq 1$ なので $-\sqrt{2} \leq t \leq \sqrt{2}$

したがって、 y は

$$t = \sqrt{2} \text{ で最大値 } \sqrt{6} + 1, \quad t = -\frac{\sqrt{3}}{2} \text{ で最小値 } -\frac{7}{4} \text{ をとる。}$$

ゆえに、求める y の値の範囲は $-\frac{7}{4} \leq y \leq \sqrt{6} + 1$

5) 25点

$$f(x) = x(1-x) \text{ とおくと } f(x) = -x^2 + x = -\left(x - \frac{1}{2}\right)^2 + \frac{1}{4}$$

よって、 $f(x)$ は $x = \frac{1}{2}$ で最大値 $\frac{1}{4}$ をとる。

ゆえに図より、放物線 $y = f(x)$ と直線 $y = m$ が異なる 2 点で交わるとき、 $m > 0$ も考慮すると

$$0 < m < \frac{1}{4}$$

$A(\alpha, m), B(\beta, m)$ ($\alpha < \beta$) とすると、 α, β は $x(1-x) = m$ すなわち $x^2 - x + m = 0$ の実数解であるから、解と係数の関係より

$$\alpha + \beta = 1, \quad \alpha\beta = m$$

したがって

$$AB^2 = (\beta - \alpha)^2 = (\alpha + \beta)^2 - 4\alpha\beta = 1 - 4m$$

$0 < m < \frac{1}{4}$ のとき $1 - 4m > 0$ であるから $AB = \sqrt{1 - 4m}$

よって、 $\triangle OAB$ の面積を $g(m)$ とおくと

$$g(m) = \frac{1}{2} \cdot AB \cdot m = \frac{1}{2} m \sqrt{1 - 4m}$$

$$\text{ゆえに } g'(m) = \frac{1}{2} \sqrt{1 - 4m} + \frac{1}{2} m \cdot \frac{-4}{2\sqrt{1 - 4m}} = \frac{-6m + 1}{2\sqrt{1 - 4m}}$$

$g'(m) = 0$ とすると $-6m + 1 = 0 \Leftrightarrow m = \frac{1}{6}$

$g(m)$ の増減表は次のようになる。

m	0	...	$\frac{1}{6}$...	$\frac{1}{4}$
$g'(m)$		+	0	-	
$g(m)$		↗	極大	↘	

よって、 $g(m)$ は $m = \frac{1}{6}$ で極大かつ最大となり、その値は

$$g\left(\frac{1}{6}\right) = \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{6} \sqrt{1 - 4 \cdot \frac{1}{6}} = \frac{\sqrt{3}}{36}$$

となるので、 $\triangle OAB$ の面積は $m = \frac{1}{6}$ で最大値 $\frac{\sqrt{3}}{36}$ をとる。

